

群馬県支部

会報 第4号

発行日 平成 26 年 1 月 1 日

発行人 公益社団法人

日本技術士会群馬県支部

広報委員会

支部長メッセージ

輝かしい新年を迎え、会報第4号の発行に当たり

公益社団法人 日本技術士会 群馬県支部 支部長 加藤 洋(機械・経営工学・総合技術監理)

公益社団法人日本技術士会群馬県支部では、平成24年度末の任期終了にともない幹事選出選挙が平成25年3月29日に実施され、15名の幹事が立候補し、全員が信任されました。その後6月18日に開催された本部定期総会で、2年間の任期で承認され、平成25年度の事業は、この15名の幹事で推進することになりました。平成25年度は、6月27日に第1回技術相談会、7月26日に全体会合と第3回技術講演会、そして10月18日に工場見学会を実施しました。



群馬県支部は、平成 25 年 10 月末現在で、正会員 92 名、準会員 41 名、合計 133 名の会員を有する組織となりました。群馬県支部としての今後の運営に当たりましては、平成 25 年度の群馬県支部活動方針として下記 4 項目を掲げ、新幹事並びに会員の協力を得て推進して参りました。

- 1. 役員改選に伴う支部組織&委員会体制の見直し
- 2. 群馬県支部事務局の住所/電話/FAXの変更
- 3. 会員技術士の活用促進活動
 - ①幹事を含む支部全会員に自己 PR を含む経験論文を A4 裏表 1 枚(2ページ)にまとめ、会報に順次掲載し、その会報を増刷し会員だけでなく、協賛企業、県庁や市役所、商工会議所にも配布する。会報の表紙の裏には、技術士の活用方法や対価等記載して技術士の活用促進を図る。
 - ②協賛企業を増やし、県庁や市役所との連携を強化し、国や県のものづくり中小企業 支援等の補助金を活用して、県内の中小企業への専門家派遣や技術相談会を積極的 に行う。

③支部会員の技術士が講師や案内人となり、児童や学童を対象とした理科教室や見学会を実施する。実費は県や市又は協賛企業、学校から支援頂く。

4. 調查·研究事業

・自主テーマ、又は依頼テーマで調査研究事業を支部会員で実施し、報告書にまとめて協賛企業、関係機関に配布する。将来的には協賛企業、県や市、学校や大学からの依頼で調査・研究事業を有料で行う。

その結果1. と2. は既に実施、3. の②は、ものづくり補助金申請書作成支援無料相談会として6月27日に実施、3. の①は来年の9月1日に第1号の発刊を目指し、募集を開始しました。3. の③、及び4. については、幹事会で今後引き続き審議して、来年度以降に実現していきたいと思います。

今後の群馬県支部の活動にご期待戴くと共に、皆様方からのご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

■第2回工場現場見学会報告

■**見学先所在地**:株式会社グランパ ウィズファーム草津(http://granpa.co.jp/news/333)

群馬県吾妻郡草津町前口 229 TEL:0279-89-8082

■見学日時: 平成 25 年 10 月 18 日 (金) 14:00~16:00

■見学内容

植物工場は、太陽光利用型のエアドームを用い、直径約 30mのドーム型水耕栽培施設 6 棟において、高効率生産(生産量の増加・作業費の軽減・エネルギーコストの軽減)を実現しているとのことでした。現在、生産している野菜はレタス 3 種類で、県内および県外に出荷しています。管理者 2 名と従業員 12 名(登録は 20 名)で運営されております。野菜の日別生産量は 500 株(1 ドーム当たり)×6 基で、3,000 株とのことです。



組織概要

会員数 正会員 92 名 準会員 41 名 計 133 名 (平成 25 年 10 月末現在)



支部幹事

<u> </u>		
氏名	部門	役職名・委員会名
石塚 省吾	建設	会計幹事 監事
大竹 雅久	機械	幹事 企画研修委員
大谷 恵	機械	幹事 広報委員
大山 健一	機械	副代表幹事(副支部長)総務委員長
加藤 洋	機械、経営工学、総合技術監理	代表幹事(支部長)事務局
小林 聖	衛生工学、総合技術監理	幹事 企画研修委員
佐藤 孝史	上下水道、建設、衛生工学、総合技術監理	幹事 総務委員
樋口 邦弘	建設	会計幹事 監事
福田 文彦	応用理学	幹事 企画研修委員
二川 真士	機械	幹事 広報委員
辺見 勇	機械	幹事 広報委員長
眞下 寛治	機械	副代表幹事(副支部長)総務委員
松本 泰彦	農業	幹事 総務委員
山本 政雄	上下水道、総合技術監理	幹事 企画研修委員
山本 亮一	応用理学	幹事 企画研修委員長
15名		

社団法人日本技術士会群馬県支部会員の皆様へ

経験論文募集について

社団法人日本技術十会群馬県支部

我が国の科学技術の発展やその産業利用のためには技術士がより広範な技術者の資格として、社会で一層活躍する事が重要であります。そのためには、技術士の会員数も一層増えることが必要であり、技術士の知名度を上げて行く事が要求され、その効果を上げるには、現在の技術士の方々の長年に亘る成果の一部を、経験論文として発表して戴く事が重要であると考えられます。

就きましては、此の度、社団法人日本技術士会群馬県支部に於きまして、全会員から経験論文を募集する事と致しました。

経験論文は各々の技術士が保有されている貴重な固有の技術を広く公開し、技術能力と 実績をアッピールする手段であり、その絶好の機会でもありますので、会員の皆様に於か れましては、是非、この趣旨にご賛同・ご協力を戴き、奮ってご応募戴くようお願い申し 上げます。

論文は会報とは別に、「社団法人 日本技術士会群馬県支部 経験論文集」として発行し、 協賛企業、県庁、市役所、商工会議所に配布致します。

技術士の活用方法や対価等も記載し、技術士活用の促進を図ります。

・経験論文の内容

・テーマ例

調査研究、応用技術の展開、環境分析調査と自然対応、資源循環型社会の考察、減災活動への取組み、持続可能な経営助言、新加工法開発、リスク管理、森林資源の活用、冷凍空調技術、水質浄化技術、大規模土木工事、施設建設工事、震災復興活動支援、産学官連携活動、農村開発整備技術、再生可能エネルギー大規模活用、ダム・水路整備、橋梁トンネル建設、など。その他企業支援、相談活動、助成金支援などを含みます。

- ページ数 - 字数

A4、2 ページ、文章は MS 明朝フォントサイズ 10.5、40 字 \times 36 行 タイトルは MS ゴシック、フォントサイズ 12 程度。

・写真・図表等

顔写真($3\times4\sim4\times5$ 単位:cm)は必ず添付、(場所は右上)、1 ページに必ず 1 枚以上の写真または図表($4\times6\sim6\times8$)を添付(場所は適宜)して下さい。

- 日程

発行は平成26年9月1日と致します。。

募集の開始は平成26年5月30日(金)と致します。

原稿の募集締切は平成26年7月25日(金)と致します。

新人紹介

新規技術士としての抱負

本田建設株式会社 本田 敦久 建設部門(道路)

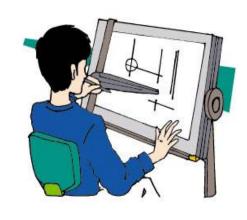
群馬県邑楽郡大泉町の総合建設業、本田建設株式会社の本田敦久と申します。私は2013年3月、建設部門(道路)の技術士となりました。新規技術士の自己紹介と今後の抱負を述べさせて戴きたいと思います。

私はこれまで、幼い頃からの目標であった「国土に貢献する建設技術者」になるべく、建設業界における仕事、学業に励んで参りました。学生時代には、模型実験、数値解析を用いた地中連続壁の安定性の研究、液状化に関する研究といった地盤工学を主に学んで参りました。その後、ゼネコンに就職しまして都市土木を主とした工事施工管理に携わりました。次いで建設コンサルタントに転職しまし



て道路、補強土壁・法面といった道路構造物やトンネルの設計、数値解析等に携わりました。私は、これまでの建設コンサルタント、ゼネコン勤務時代、そして学生時代の卒業研究出向先等にて多くの先輩技術士と出会ってきました。そして、時には厳しくも日々適確な技術指導を頂いて参りました。そのような中で、「いつの日か自分も技術士になりたい。」という目標を持って日々仕事、学業に専念しておりました。

現在は、地元である群馬県に帰ってきまして、父の営む群馬県大泉町の本田建設株式会社に所属しております。当社は、創業から約60年、群馬県下で建設業者としての地歩を築いて参りました。営業内容としましては、土木工事、建築工事の施工・設計業務です。こちらに帰ってきてからは、施工管理、設計、そして営業といった幅広い業務に携わり、日々



奮闘しております。現在は国土交通省発注工事の現場代理人を務めております。

地元の群馬県に帰ってきて2年が経ちましたが、 日々感じていることがあります。それは、「技術者の 減少・技術力の低迷」です。例えば、現場で効率よ く仕事を進めるには職人さんを集めなければなりま せん。重機も、重機を運転する人も集めなければなりま すません。全国でも同じ状況かとは思いますが今は 本当に集めにくい状況になりつつあります。超高齢 社会の到来、若者の建設離れ、それに伴う若手技術 者の減少、これまでの建設市場の縮小化に伴った企 業の技術投資の減少等、様々な要因が挙げられるかと思います。また、技術者が減少すれば当然これまで先輩技術者たちが培ってきた技術の伝承も行われにくい状況となっております。一方で、昨今の過剰化する自然災害に対応した防災機能の創出、超高齢社会に対応したまちづくり、経済成長も加味した事業展開等、建設業界においてはまだまだ課題が山積みです。このような課題がある中で、私たちは先輩技術者たちが育んできた国土を受け継いでいかなければなりません。10年後、20年後、30年後の日本の国土はどのような発展を遂



げるのでしょうか。情報化施工、さらにはロボット施工が主流になっているのかもしれません。交通網も今の形態とは大きく変化しているかもしれません。また、海外市場が主流



化しているかもしれません。今後の疾風怒濤の建 設業界の変革に少しでもついていけるように自 己研鑽を重ねて行きたいと思います。

そして、今後は、技術士会の諸先輩方との交流 を深め、技術的見地を広げ、よりよい技術士にな れるよう日々精進して行きたいと思います。そし て、建設部門の技術士として安全・安心な国土の 創出に努めて行きたい所存です。今後ともご指導 ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

総務委員会通信

総務委員会だより

副支部長 総務委員長 大山 健一(機械部門)

明けまして、おめでとうございます。

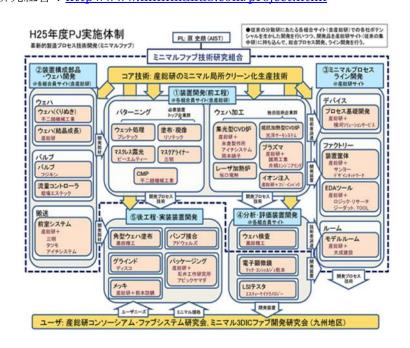
昨年は、10月18日に支部主催で植物工場見学会や10月11日に農業部会の主催で群馬県内の見学会が開催され、支部としても共催いたしました。地盤工学会関東支部設立10周年記念事業「平成25年度地盤工学会群馬県グループ講演会」にも共催参加しました。また、群馬県主催で、11月18日には「ぐんま医療産業シンポジウム」、12月13日には「中小企業サポーターズ国競争的資金獲得支援等研修会」も開催されました。詳細はホームページの役委員会議事録や活動記録などに掲載してあります。地域密着型の支部活動が展開され、より一層、緊密に地域発展に貢献できて行きつつあると感じています。



事務局は相変わらず加藤支部長に献身的に面倒みて戴いています。ご本人は、つくば市の産業技術総合研究所でミニマルファブ技術研究組合の事務局長をされ、「日本の新しいものづくりの革新」に精力的に貢献され、成果が出つつあると聞いています。

支部会員の立場から誇りを感じ、成果を楽しみにしていることもあり、敢えてお知らせさせて戴きます。

* ミニマルファブ技術研究組合: http://www.minimalfab.com/project.html



企画研修委員会通信

企画研修委員会よりのご挨拶

企画研修委員長 山本亮一(応用理学部門)

1. はじめに

この時期、例年であれば、心を落ち着かせ、行く年を振り返り来たる年の構想を練る、と云う所でしょうが、政権交代以来のいわゆるアベノミクスにより、 我々技術士を取り巻く環境も、大変慌ただしいものとなってきました。

群馬県は、H25 年夏に、群馬大学の重粒子線治療施設を中核として、「がん治療技術地域活性化総合特区」指定を受けました。また、本稿が公表される頃には、



恐らく、消費増税前の総額 5.5 兆円の大型補正予算が国会を通過している事と思います。 この中には、「新ものづくり補助金」と称される中小企業対策費が約 1,400 億円盛り込まれております。早ければ、2月中に公募が開始されるものと思われます。

この様な国の施策を県内中小企業支援に有効に活用すべく、群馬県では「中小企業サポーターズ制度」が設けられました。我々日本技術士会群馬県支部もその一翼を担っています。企画研修委員会としましても、このような我々を取り巻く環境の変化に、機敏に対応した企画を立てて行きたいと思っております。

2. 第2回見学会の振り返り

直近に行なわれました企画は、10月18日(金)の第2回見学会です。昨年に引き続きバスツアーで行いました。今年は、草津町に有る日本基礎技術(株)植物工場ウィズファーム草津様に伺いました。この植物工場は、太陽光利用型エアドームを用い、生産量増加、作業費軽減、エネルギーコスト軽減の実現を狙っているものです。TPPなどの環境変化により、日本の農業も変わって行かざるを得ません。植物工場技術の様に、農業分野においても、工業系の技術士が活躍すべきフィールドは、今後益々大きくなって行くものと思います。手前味噌ですが、意義深い見学会だったのではと思っております。

3. 今後の CPD 関連企画のご案内

本年度、期首に計画しました CPD 関連企画は、既に終了しました。現在企画委員会では、来年度の企画を練っております。基本は、例年通り、講演会、見学会、相談会の三本柱です。それぞれの中身については、上述の通り、タイムリーなテーマ選定を行なって行きたいと思っております。会員各位に於かれましては、各行事への積極的なご参加、企画テーマ案のご提案、更には、企画委員会への参画、運営サイドとしてのご協力を、宜しくお願い致します。

広報委員会通信

広報委員会だより

広報委員長 辺見 勇(機械部門)

此の度は、新人紹介としては、本田 敦久様に執 筆をお願い致しました。建設業界の若手技術士とし て、今後、益々ご活躍されますよう、願っておりま す。

平成 25 年も、東京ビッグサイトでは、毎月、多種の展示会が開催され、見に行って参りました。各企業のみならず、全国の大学も参加しており、若い学生たちも熱心に説明をされておりました。センサーや制御回路を使用して、ロボットやリハビリ用器具などが開発されていました。各企業においても、それぞれに、省エネルギーや環境対策など技術開発を競い合っている状況を伺うことができました。また、



工場の合理化を推進する部品供給装置なども精度や効率の面で進歩している状況が見られました。

企業経営では、販売が重要な位置を占めており、通信販売でのITの活用の他に、感性を を活用した手法などがあり、正に多様化の時代で、いかにこれらを利用して行くか、選択 し、集中して行く事が大切であると感じました。

色々と現在進行している社会の状況の情報を捉え、企業の発展のための支援をして行く ことが大切だと思います。

技術士の資格を取得して、20年近くになります。現在は、県内の企業をを支援致しておりますが、当初は隣の栃木県からの話があり、約3か月以上にわたって、工業試験場の計測機器を使用して、計測、分析をしたこともありました。当時、群馬県内では、技術士の方々が活躍されておられました。群馬県内に居住されたり、企業に勤務されている方々には、ぜひ、これから、技術士の資格を取得され、地域産業支援のために、健康の許す限り、活躍される事を切望致します。

群馬県支部では、平成 26 年 5 月 30 日(金)から、7 月 25 日(金)までの期間で、群馬県支部・技術士会員の皆様からの経験論文を募集致します。これらの貴重な経験の中から、技術士の活躍の状況を知って戴き、その活用に役立てたり、また、若い方々が技術士のグループに参加される機会となる事を願っております。

皆様がそれぞれに、研究された技術、事業に活用した技術、現在進めようとしている技術など経験論文として執筆され、応募されますようお願い致します。群馬県支部事務局あてに、メールにて、お送り下さい。応募の詳細は「経験論文募集について」をご覧下さい。

≪編集後記≫

最近の円安を背景に景気は上向きと言われていますが、皆さまの実感はいかがでしょうか。つい先日には、来年4月の消費税率引き上げによる景気の腰折れに備え総額 5.5 兆円の平成 25 年度補正予算案が閣議決定されました。この中には、ものづくり補助金を含む「中小企業・小規模事業者によるものづくり等の支援」として 1,582 億円、研究開発成果の実用化支援や健康医療産業の支援等を含め「イノベーション推進」として 661 億円などが計上されています。政府も、お金を無駄に使いたいということはなく、極力有効に使いたいと思ってはずです。そこには、シーズとなる技術とそれを活かす産業への展開を見通す確かな目利きが必要となります。まさに、それこそが我々技術士の活躍するフィールドではないでしょうか。

【広報委員 二川 真士 (機械部門)】

広報委員会

委員長 辺見 勇 (機械)

委員 二川 真士(機械)

おおや さとし

委員 大谷 恵 (機械)